

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 12 月 1 日

事業所名 コペルプラス湘南台 教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		プレイルームで粗大運動をするが課題によっては、狭く感じる。特にソーシャルレッスンの時は、接触が不安である。	活動時には順番を待つ場所など決め、できるだけ児童同士が接触するなどトラブルがないように工夫している。
	②	職員の配置数は適切である	6		現時点では適切である。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールを可視化したり見本をみせて何をするのか伝えている。 ・階段があるので完全にバリアフリーではないが声掛けは意識的に行っている。 ・玄関の扉で指を挟まないように、絵や文字を使用し注意喚起を行っている。 	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		常に清潔であるように心がけている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		カンファレンスを通して改善に努めている。	療育終了時、担当者による振り返りを発表してもらい、情報共有を行っている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			

	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			保護者への依頼、職員の自己評価を含め、規定に沿って行っている。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		(第三者評価実施なし)
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		本部からの研修に基づき行っている。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		アセスメント後、支援計画原案会議を行い、スタッフの意見を聞き、追加・修正など行っている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			コミュトレ（月末プログラム）の制作物や集団時の活動など、担当者間で話し合っている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		児童の発達やニーズに応じて支援を行っている（言葉の支援など）	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		職員のカンファレンス・保護者へのモニタリングでのニーズの聞き取りを通し	

				て作成するようにしている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	毎朝、ミーティングを行い、特に注意することや確認事項共有する。直前に前回の様子を担当者に伺い、内容調整をしている。 ・朝の打ち合わせを行い、全体周知を行っている。 特に気を付けることは付箋に書き込む等、工夫している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	毎日行っている。 必ず担当者から療育の様子など述べてもらう。どうすればもっと良かったかなど、担当者が意見を求めている時は、スタッフ全員で意見を言い合い、改善に努めている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	必ず行っている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	必ず行っている。	
関係機関や	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	児相に関わる過程については教室長	

保護者との連携関係機関や保護者との連携				がやりとりを重ねている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	該当する利用者がいません。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6	該当する利用者がいません。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	・依頼があれば支援内容や状況の書類を作成し、就学先の学校長中心に直接お伝えしている。 ・卒園前には全てモニタリングを行い、支援の総まとめを行っている。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6		

	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	定期的に行われる地域連絡会に参加している。	
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	主にコミュトレ時に行っている。	

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に教室長が説明している ・重説事項説明の全文を説明等するように心がけている。 	
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		<ul style="list-style-type: none"> ・必ず同意を得て写しもお渡ししている。 ・契約時に支援計画を提示している。 	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6			
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		教室だよりを発行し、活動内容等をお伝えしている。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	6			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		
非常時等	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		事業所内研修を行い、緊急時に備えている。	

の 対 応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	6		年に2回、利用者 の協力を頂き、行 っている。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこ どもの状況を確認している	6		契約時に確認して いる。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指 示書に基づく対応がされている		6	食事の提供なし。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有し ている	6		月末に共有してい る。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保す る等、適切な対応をしている	6		年に2回行ってい る。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に事 前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達 支援計画に記載している	6		契約時に説明し、 同意を得ている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。